

企画展

Meeting Chilean Arpilleras

チリのキルト=アルピジェラ
に出会う



2013年5月3日～10月31日

Oshimahakko Museum
大島博光記念館

ごあいさし

アルピジェラ展へようこそ

さまざまな色の布切れと可愛らしい人形を縫いつけて作られたアルピジェラ、一九七〇年代から軍事政権下のチリの女性たちが共同作業で作り、世界の人々に販売してチリの現状を訴えました。日本でもチリ人民連帯日本委員会が連帯運動の一環として販売しました。

チリ人民連帯日本委員会が解散した後、アルピジェラは高橋正明氏（元東京外国語大学教授）が保管していましたが、二〇〇九年に約九〇点を当記念館で譲り受けました。

昨年、酒井朋子先生（東北学院大学）が、本年二月にはロベルタ・バシックさん（チリ出身のアルピジェラ専門家）と酒井先生が調査に訪れ、貴重な資料としての価値を評価し、展覧会などで公開することを助言されました。その第一歩として今回の展覧会を開催することとなりました。今回は九つのカテゴリーごとに選んだ代表的なもの二十二作品を展示します。

今年は一九七三年九月十一日、アジェンデ政権が軍事クーデターで倒されて四十年目になります。アルピジェラに触れながら、苛酷な状況のもとで生活し行動したチリの人びとの生き生きとした声を感じ取っていただきたいと思えます。

この展覧会を開く原動力となつて尽力されたバシックさんと酒井朋子先生、アルピジェラ作品を提供された高橋正明先生、準備作業にご協力下さった地域の皆様に感謝申し上げます。

二〇一三年五月三日

大島博光記念館館長 大島朋光

Meeting Chilean Arpilleras

Voices of solidarity speak to us when looking into the history of this collection of arpilleras that resides in Oshima Hakko Museum and others that live in Japan and around and beyond.

Arpilleras (pronounced "ar-pee-air-ahs") are three-dimensional appliquéd textiles from Latin America, originating as a Chilean folk craft. From the first, pieces of strong hessian fabric (called 'arpillera' in Spanish) were used as the backing and that word became the name for this particular type of tapestry. The images are done using scraps of materials, threads and a needle and all is hand sewn. Violeta Parra, the well-known Chilean folk singer made arpilleras at a time she could not sing and brought them to Paris in the late 1960's; they showed scenes of Chilean history and also illustrated characters. 'Bordadoras de Isla Negra' also influenced the arpilleras as they stitched in bright colours bucolic scenes of their peasant lives.

In the context of systematic human rights violations under the Pinochet dictatorship in Chile between 11 September 1973 and March 1990, this style of sewing developed into an act of political subversion and a way to raise international awareness of the violence and repression. Their influence is now threaded through arpilleras produced in other countries of Latin America, Africa and Europe.

The Japanese Committee for Solidarity with the People of Chile was established in February 1974 and dissolved in April 1991. It started to buy, promote and commercialize arpilleras in 1988. The ones presently on exhibit at this museum belong to those times. Professor Masaaki Takahashi, who owns a personal collection, has written about this. He is a source of memory for this collection and the solidarity project. In 2009, many years after the committee ceased its activity, Professor Takahashi donated these arpilleras to Oshima Hakko Museum.

Through the simple activity of sewing, women, whether working individually or as a group, remember, bear witness to, resist and denounce the atrocities they have lived. Thus their sewing, a traditional domestic activity, becomes a powerful act of resistance, testimony and a mechanism for spreading that message of resistance worldwide.

In the foreword to *Tapestries of Hope, Threads of Love: The Arpillera Movement in Chile 1974 - 1994* by Marjorie Agosin

(1996), Isabel Allende says: "With leftovers of fabric and simple stitches, the women embroidered what could not be told in words, and thus the arpilleras became a powerful form of political resistance." Marjorie Agosin herself says: "The arpilleras flourished in the midst of a silent nation, and from the inner patios of churches and poor neighbourhoods, stories made of cloth and yarn narrated what was forbidden."

The simple act of appreciating and buying these pieces also had a powerful effect. The Japanese Committee for Solidarity was not alone, and many other groups from different parts of the world, also connected to the arpilleras and supported their work. Their motivation was sometimes political and ideological as in Japan, sometimes humanitarian and sometimes religious. But in all cases these voices of solidarity stood beside the women to remember, bear witness, to resist and denounce the atrocities. It is also important to say that the arpilleras were a means of economic survival for the arpilleras as well as they played their part in strengthening and empowering the women and building global opposition to the Pinochet regime.

Arpilleras often also have a 'relief' quality for the makers while powerfully connecting the issues they portray to the viewers and inviting them to respond and express their own concerns. The scrap material and stitching, which create the simple, clear lines and forms of the figures and motifs -- often three-dimensional -- allow the viewer to comprehend and appreciate the determination of these Latin American sewer artists and lets the women feel that they have a voice which empowers them.

This exhibition features arpilleras in their politicised form. Perhaps it is the surprisingly complex depth of emotion articulated by an apparently simple visual style that makes the appeal of the arpilleras strong and their language universal.

I invite you to respond to this exhibit with your mind and your heart, and perhaps with stitches of your own; at this time when we mark 40 years since the military cup d'état.

Roberta Bacic
Chilean Curator of Arpilleras
May 2013
www.cain.ulst.ac.uk/quilts

大島博光記念館 企画展「チリのキルト＝アルピジェラに出会う」

序 文

大島博光記念館にあるこのコレクション、および日本内外のその他の場所にあるアルピジェラの歴史を見つめるとき、連帯の声がわたしたちに向けて語りかけてきます。

アルピジェラ (arpillera) はラテンアメリカの三次元のアップリケの裁縫作品で、もとはチリの民芸品です。当初から丈夫な麻の厚布を裏布として用いており、その裏布をさす語 (スペイン語でarpillera) がこのタペストリー自体の呼び名ともなりました。端切れと糸と針を用い、すべて手縫いで描き出されている作品です。チリの有名なフォーク歌手、ヴィオレタ・パラには歌うことのできなかつた時期がありました。パラはこのときアルピジェラ作品を作り、1960年代後半にパリに持ってゆきました。パラの作品にはチリの歴史のいくつかの場面と人物を見ることができます。農民の暮らす田園風景を色鮮やかなステッチで描いた「イスラ・ネグラの刺繍作品」もまたアルピジェラ作家たちに影響を与えています。

1973年9月11日から1990年3月まで続くチリのピノチェト独裁体制による組織的な人権侵害の文脈のなかで、この裁縫のスタイルは政治的な抵抗行動の技法であり暴力と抑圧について国際的な意識を高める技法でもあるものへと発展していきました。その影響力は大きく、ラテンアメリカ、アフリカ、あるいはヨーロッパの他の国でも現在アルピジェラが縫われ、作られるに至っています。

チリ人民連帯日本委員会は1974年2月に結成され、1991年4月に解散した団体です。この委員会は1988年にアルピジェラの購入と普及活動、販売を開始しました。大島博光記念館で現在展示されている作品は、この時期に作られたものです。アルピジェラの個人コレクションを自分でも所有する高橋正明氏がこの経緯を書き記しています (訳注: 『チリ・嵐にざわめく民衆の木よ』大月書店、1990年)。高橋氏はここに展示されているコレクションと連帯活動の記憶の源であるといえるでしょう。連帯委員会が活動を終えてしばらくの後、2009年、高橋氏はここにあるアルピジェラを大島博光記念館に寄贈しました。

個人で作業をするにせよ、グループで作り上げるにせよ、女性たちは縫い物というシンプルな手段を通じ、自分たちの生きてきた残酷な経験を記憶し、証言し、抵抗し、告発しています。こうして伝統的な家庭の仕事であった裁縫は、抵抗と証言の力強い行動となり、世界中にその抵抗のメッセージを伝える装置ともなっていたのです。

マージョリー・アゴシン著の『希望のタペストリー、愛の糸: チリのアルピジェラ運動 1974-1994年』 (Tapestries of Hope, Threads of Love: The Arpillera Movement in Chile 1974 - 1994, 1996年出版) によせた序

文でイザベル・アジェンデは以下のように描いています。「使い古しの生地と素朴なステッチを用いて、女性たちは言葉にできないものを刺繍にしていた。そうしてアルピジェラは力強い政治抵抗の方法となったのである。」マージョリー・アゴシンによる本文にも次のようにあります。「アルピジェラは沈黙する国民のただなかから咲き出てきたのであり、布と糸で作られた物語が、禁じられた事柄を教会の中庭と貧民地区から物語ったのである。」

これらの作品に価値を見だし購入するという行動も、それだけで大きな効果をもっていました。チリ人民連帯日本委員会のみならず、世界の他の地域の多くの団体が、アルピジェラと関係し、アルピジェラ作りを支援しました。その動機は、日本の連帯委員会がそうであったように、時には政治的、イデオロギー的なものであり、時には人道的であったり宗教的なものでもありました。けれどもいずれの場合においても彼らは、その連帯の声でもって作り手の女性たちのかたわらに立ち、残酷な行いを記憶し、証言し、抵抗し、告発しようとしてきました。またアルピジェラによって作り手たちが生き延びるための経済的手段をえたことも記しておかなければなりません。アルピジェラは彼女たちを勇気づけ、彼女たちに機会を与え、ピノチェト政権に対する抗議の声を世界で打ち立てていくために貢献したのです。

アルピジェラはしばしば作り手たちの「苦痛をやわらげる」性質をもっています。その一方で、見る者を作品に描かれている問題に深く接続し、それに対し応答するよう、そして自分自身の事柄として何かを表現していくよう導きます。素朴ではっきりとした輪郭と形状の人物やモチーフ—しばしば三次元で表現されます—を作り上げている端切れとステッチによって、作品を見る者は、ラテンアメリカの裁縫作家たちの決意を理解し評価することができるようになります。そして作り手の女性たちは、自分が力ある声をもっていると感じることができるのです。

この展覧会は、政治的な形態をとったアルピジェラに焦点をあてています。驚くほど複雑で深さをもった感情が一见すると素朴なスタイルで表現されていることによって、おそらくアルピジェラは人びとに力強く訴えかけ、普遍的な言葉をもつものとなっているのでしょう。

この展覧会に対しあなた自身の心と魂で、そして願わくばあなた自身の縫いものを通じて応答してほしい。チリの軍事クーデターから40年を数える今、わたしはそう願っています。

2013年5月

チリ出身のアルピジェラ・キュレーター
ロベルタ・バシック
(英文和訳 酒井朋子)

<カテゴリーの概略>



Olla común al aire libre
Open Fire Soup Kitchen

焚き火と共同なべ

共同なべ
不明, 1990年頃
人形つきアルピジェラ 48cm×38cm



Niños esperando comida de la olla común
Children Waiting for Soup Kitchen Food

共同なべの食事を待つ子どもたち

共同なべ
不明(Workshop Nuevo Horizonte), 1990年頃
人形つきアルピジェラ 48cm×38cm



Taller de arpilleras FASIC
FASIC Arpillera Workshop

FASICのアルピジェラの作業所

アルピジェラの作業所
Maria Meneses, 1991年
人形つきアルピジェラ 50cm×39cm



Vida poblacional: empleo en la comunidad
Daily Life in a Poblacion: Work in the Community

ポブラシオンの日常：地域で働く

ポブラシオンの日常
不明, 1990年頃
人形つきアルピジェラ 83cm×66cm



Trabajo POJH como barrendero
Gardening as a POJH Worker

失業者対策プログラムの花壇整備

ポブラシオンの日常
不明, 1990年頃
人形つきアルピジェラ 50cm×41cm



Circo safary
Safari Circus

サファリ・サーカス

ポブラシオンの日常
L. H., 1990年頃
人形つきアルピジェラ 49cm×38cm

「共同なべ」

共同なべとはポブラシオンでの炊き出しのことで、貧しさのため家庭単位では日々の食事を十分に準備できない人びとのために行われています。

会費制で運営されているものや教会によって設立されるものなど、そのあり方は多様であり、支援団体や私的な寄付に支えられていることもしばしばです。屋外に調理場があることも多く、たき火やプロパンガスを使ったものなど、いろいろな形態のなべが見られます。

「アルピジェラの作業所」

ポブラシオンでは、人びとがたがいに助けあい、生活に必要な作業をこなし、労働のためのスキルを身につけ、あるいは情報交換を行うためのさまざまなワークショップが開かれていました。アルピジェラによく描かれる主題です。とくにこの作品群は、アルピジェラを作る人びとをアルピジェラで描くという、ちょっとした遊び心のうかがえるものといえるでしょう。

「ポブラシオンの日常」

アルピジェラの作り手の多くが暮らしていた大衆居住地区の日々の様子を描く作品群です。軍政下の自由主義経済体制のもと、ポブラシオンの住人たちが勤めていた工場の多くは倒産を余儀なくされ、長期的な失業と貧困が大きな問題として浮上してきます。住民達は、時にはPOJHなどの失業対策プログラムのもとで、あるいは自分自身の力で、どうにか地域のための仕事を見つけようとしていきました。一方で、苦境にもめげず明るく交流しあう人びとの様子も描かれています。

7



Ni perdón ni olvido
No Forgiveness, No Forgetfulness

許すまい、忘れまい

政治行動
Irma Muller, 1990年
パッチワーク アルピジェラ 50cm×38cm

8



Libertad a los presos políticos
Freedom to the Political Prisoners

政治囚に自由を

政治行動
Irma Muller, 1990年
パッチワーク アルピジェラ 48cm×37cm

9



Acción del MCTSA: castigo a los torturadores
MCTSA Demonstration: Punishment to Torturers

MCTSAのデモ：拷問に罰を

政治行動
不明, 1980年代後期
人形つきアルピジェラ 48cm×37cm

10



Represión a una acción por la justicia
Repressed Action for Justice

放水車での行動鎮圧

政治行動
不明, 1990年頃
人形つきアルピジェラ 50cm×49cm

11



¿Dónde están?
Where Are They?

彼らはどこに？

行方不明者はどこに？
不明 (AFDD), 1990年
パッチワーク アルピジェラ 47cm×36cm

12



¿Dónde están los desaparecidos? Verdad Justicia
Where Are the Disappeared? Truth and Justice

彼らはどこに？：真実と正義を

行方不明者はどこに？
不明, 1990年頃
パッチワーク アルピジェラ 47cm×37cm

「政治行動」

抑圧的な体制に抗して立ち上がった人びとの行動を描いている作品群です。その中心にあるのは、拷問など政治囚に対する人権侵害を告発していくものです。また、独裁体制に荷担した者たちへの恩赦に反対するメッセージを表明する作品もあります。熾烈な政治暴力の後に安易に「和解」を語ることの難しさが、ここにあらわれているとも言えるでしょう。「孤独なクエカ」に典型的に見られるような象徴的パフォーマンス、あるいはデモンストレーションなど、直接暴力を用いない行動形態が多いのも印象的です。

「行方不明者はどこに？」

この作品群は内容としては「政治行動」の中に含まれるとも言えますが、アルピジェラの主題としては数多く見られるもので、それ自体の位置を確立しています。「¿Dónde están?」はスペイン語で「彼らはどこにいる?」という意味で、行方不明者についての情報を求める家族や近親者の行動において繰り返し用いられた標語です。AFDDの略称で知られる「拘留者・行方不明者の家族の会」は中心となった団体の一つで、本展の作品のいくつかもAFDDのメンバーによって制作されています。

13



¿Dónde están?/
Where Are they? : Banners

彼らはどこに? : プラカード

行方不明者はどこに?
Violeta Morales, 1990年
パッチワーク アルピジェラ 47cm×36cm

14



La cueca sola
Cueca Sola

孤独なクエカ

孤独なクエカ
Violeta Morales, 1990年
パッチワーク アルピジェラ 47cm×37cm

15



La cueca sola
Cueca Sola: with Viewers

孤独なクエカ : 観客とともに

孤独なクエカ
Ana Rojas, 1990年
パッチワーク アルピジェラ 50cm×38cm

16



Bombardeo de Radio Corporación
Bombing of the State Radio Corporation

国立ラジオ局の爆撃

政治的抑圧
Maria Cortez, 1990年頃
人形つきアルピジェラ 51cm×40cm

17



Estadio Nacional utilizado como cárcel
National Stadium in Santiago used as Prison

刑務所として使われたサンチアゴの国立競技場

政治的抑圧
Rosario Concha, 1990年
人形つきアルピジェラ 50cm×39cm

18



Apagando el fuego con los pies
Putting out Fire with Feet

足で火を消す

政治的抑圧
Rosario Concha, 1990年頃
人形つきアルピジェラ 50cm×41cm

「孤独なクエカ」

チリの非暴力抵抗行動のなかで、おそらくもっとも印象的で、もっとも知られているもののひとつです。「クエカ」はチリの伝統的なダンスで、色鮮やかな衣装をつけた男女のペアによって踊られます。軍政期に家族が行方不明となった女性たちは、このクエカをたった一人で踊りはじめました。色彩のない白黒の衣装をまとい、夫や家族の写真を胸に留めての踊りは、政治的なパフォーマンスであるとともに、いなくなった大事な人を思う行為でもあったのです。英国のミュージシャンであるスティングは、1990年、この行動を歌った曲を作っています。

「政治的抑圧」

1973年から1990年までのチリは、政治的・社会的な表現や活動が激しく抑圧される状況にありました。辛苦に耐えかねて立ち上がった人びとのデモは暴力的に鎮圧されました。また政府を批判するメッセージを少しでも発したり、政治行動に関わったと疑われた人は、ある日突然姿を消していくのでした。そして多くの人びとが、後に遺体となって発見されました。



「追悼・記念」

軍政期に命を落したり行方不明になった人びとを、蝋燭をともして想起し慰霊する人びとを描いています。政治抵抗のメッセージは明白に示されてはいませんが、犠牲者個人個人を回想する行為は、二度と同じ事が繰り返されないようにという思いをも生み出します。陰惨な行いがあったことを忘れまいとする意志は、必ずしも過去に縛られていることを意味するのではなく、現在および未来のビジョンへとつながっているのです。

「独裁体制の終わり」

大統領としての任期継続をめぐる1988年の国民投票で敗れたピノチェトは、1990年3月に大統領職を辞しました。これによってチリの独裁体制に一つの終止符が打たれました。ここに展示されている二つのアルピジェラは、反対票投票の呼びかけと、反ピノチェトの声「ノー」の勝利の様子を描き出しています。

(酒井朋子)

アルピジェラは、もともと民衆の暮らしの様子を描くチリの伝統的なタペストリーでした。一九七三年にピノチェトによる独裁体制が始まると、抑圧状況におかれたポブラシオン（貧困地区）を中心に、アルピジェラ作りの新しい動きがあらわれます。貧困地区の女性たちは、じゃがいもや小麦粉の袋を裏地とし、古着や使い古しの端切れも用いながら、自分たち自身の経験を描きはじめます。政治犯の嫌疑をかけられ行方不明になった家族について訴えるものや、貧しい生活のなかでの助け合いを描くものなど、いずれも日々の生活と経験に根ざしたメッセージに満ちています。

アルピジェラは海外の支援団体に販売され、作り手のわずかながらの生活の足しとなってきました。また、同

じ問題や苦しみをかかえる者同士が集まってアルピジェラ作りをおこなうことは、言葉にできない経験や感情をわかちあうための重要な営みでもありました。

本展覧会で展示される作品は、独裁体制が終わりに向かおうとする一九八〇年代後半から一九九〇年にかけて作成されており、過去の政治暴力を忘れまいとする意志や、新しい時代への希望を感じさせるものとなっています。素朴な人形の縫いつけられた色鮮やかで愛らしい壁かけのなかに、社会・政治への要求や家族への深い思いが込められているさまは、アルピジェラを見る私たち自身の経験や感情にも訴えかけてくることでしょう。

(酒井朋子 東北学院大学)

【年表】 アルピジェラとチリ連帯運動 Arpilleras and movements of solidarity with Chilean people

- 1900年頃 アルピジェラがイスラ・ネグラ（チリの海岸部地方）で発祥
パブロ・ネルーダが応援 ヴィオレタ・パラも制作
- 1971年 大統領選挙で人民連合のアジェンデが当選、初の社会主義政権樹立
- 1973年9月11日 チリで軍事クーデター、アジェンデ、ネルーダ死去
- 1974年2月 チリ人民連帯日本委員会創立（代表幹事の一人に大島博光）
- 1974年3月 アジェンデ夫人歓迎連帯集会
- 1974年7月 ネルーダ生誕70年記念・チリ人民連帯の夕べ
- 1975年 アルピジェラ作業所が生まれ、次第にサンチャゴ中に広まった
- 1976年3月 フォルクローレ「キラパジュン」日本公演（札幌～熊本、14都市）
- 1976年4月 チリ貨物船入港阻止闘争（横浜）
- 1977年3月 「インティ・イジマニ」日本公演（札幌～福岡、13都市）
- 1978年 海外からの連帯活動があつてアルピジェラが制作出来るようになった
- 1978年11月 マドリードでチリ連帯国際会議、アルピジェラが展示された
- 1979年11月 フォルクローレ歌手「イサベル・パラ」日本公演
- 1980年 ピノチェト訪日反対の運動、チリ人民連帯集会
- 1982年5月 キラパジュン日本公演（12都市で12回）
- 1983年5月 チリ人民が公然と反軍政行動に立ち上がる
- 1987年9月 ミゲル・リティン監督（「戒厳令下チリ潜入記」）連帯集会（東京、名古屋、京都、大阪、神戸）
- 1988年 チリ人民連帯日本委員会 がアルピジェラを輸入販売
- 1988年10月 ピノチェト信認の国民投票で「ピノチェト・ノー」の運動が勝利
- 1989年12月 大統領選挙でピノチェト敗北
- 1990年3月 民政移管
- 1991年3月 チリ人民連帯日本委員会解散
- 1999年2月 ドキュメンタリー番組「パッチワークに願いを込めて」（1992年カナダTV局制作）放映
- 2009年7月 アルピジェラなどチリ人民連帯日本委員会の資料を高橋正明氏から大島博光記念館が譲り受ける
- 2012年3月 酒井朋子先生が大島博光記念館訪問、調査
- 2013年2月 ロベルタ・バシックさんが大島博光記念館訪問、調査

企画展「チリのキルト=アルピジェラに出会う」 'Meeting Chilean Arpilleras'

期 間：2013年5月3日～10月31日

時 間：10:00～17:00

休館日：月曜日（月曜休日の場合は火曜日）

会 場：大島博光記念館 展示室

入 場：無 料

関連イベント

7月27日（土）15:00 酒井朋子先生（東北学院大学講師）講演

「世界を翔るアルピジェラ」 'Arpilleras that Fly Around the World'

8月25日（日）15:00 ドキュメンタリー「パッチワークに願いを込めて」

（カナメディアプロダクション 1992年制作）

9月15日（日）15:00 高橋正明先生（元東京外国語大学教授、元チリ人民連帯日本委員会常任）講演

「アルピジェラとチリの女性たち」 'Arpilleras and Chilean Women'

主 催：大島博光記念館 Oshima Hakko Museum

企 画：大島朋光 Tomomitsu Oshima

総合アドバイザー、作品整理・アーカイブ作業：ロベルタ・バシック Roberta Bacic

コーディネーター、作品整理・アーカイブ作業：酒井朋子 Tomoko Sakai

コーディネーター：小林園子 Sonoko Kobayashi

展示協力：二瓶昭博、棚沢忠雄、玉木信子、松本直義

大島博光記念館 Oshima Hakko Museum

〒381-1233長野市松代町清野2567-1

電話・FAX 026-278-1004 Mail sonoko28@dia.janis.or.jp

May, 2013